

<p>進学 ・ 就業</p>	<p>1957, 1964, 1975, 1977, 1992-1993, 1993-1994年 ウイスコンシン／高校卒業／25歳／26歳／53-54歳（親、きょうだいの調査あり）</p>	<p>ライフコース、結婚、中年期、移動、職業、性格、宗教、きょうだい、社会参加、投票、うえるビーイング、仕事。</p>	<p>（調査サイトより） 10317人の男性と女性と無作為で抽出された彼らからのきょうだいの調査。回答者あるいは親からの回答は、1957, 1964, 1975, and 1992年、きょうだいの調査は、1977と1993年。 始めの頃の調査では、メンタル能力のテスト（回答者と2000人のきょうだい対象）、居住する地域、学校、産業、雇用の特徴。データでは、回答者について、調査参加者の中の同性の友人3人とのリンクもしている。1977年には、回答者の2000人のきょうだいについて高度に層化した並行の面接調査を実施。92-93年：きょうだいのいる回答者のきょうだいを無作為に選び、詳細の職歴や職種、収入、資産、家族間財産のやりとり、親の社会経済的屬性、きょうだいや子どもと回答者の関係、精神的、身体的健康の詳細の記述。</p>	<p>ランドやチェコスロバキア系が多い。1950年代ウイスコンシンでは75%が高校を卒業したと推定される。サンプルの全員が高卒、そのきょうだいでは7%が高校を卒業している。数人のアフリカ系アメリカン、アジア系アメリカン、ヒスパニックを含むのみ。マインリテイを代表している。年（別プロジェクトで、1957年に高校を卒業したアフロアメリカンの調査を行う予定。）サンプルの19%が農業出身（1930年後半に生まれた人についての全国サンプルによる推定と同じ程度。） 調査は、1時間の電話調査と20ページの自記式の調査。回答者が死亡している場合は、回答者の親戚に対し、簡単な調査。きょうだいが死亡している場合は回答者に簡単な質問をする。</p>	<p>年追跡では53.54歳であった。1975年に調査しなかった人も、再度調査（850人の無回答者中475人を調査。）合計では、当初のサンプルで生存している9741人中8493人を調査。 1993-94年には、無作為で選出したきょうだいも調査。1977年に調査した2000人とさらに追加の2800人が調査された。</p>
<p>D V ・ 1 4 1</p>	<p>Women and Family Project (ds17) 1991-1996年 「女性と家族プロジェクト」 南西部大都市／3回</p>	<p>子どもの精神的問題と、家庭内暴力との関連を調査。第1の目標は、家庭内暴力が起きている家では、子どもの問題がそれ自体どのように顕在するかについて。そして、家族間の強い絆（母親やきょうだいへの愛着として表出される）が、家庭内の暴力からの影響を緩和させるかについての検討。</p>	<p>3波にわたる南西部の大都市での調査。家庭内暴力、サポーター、核家族の中でのサポーターと親密さ、母親と子どもの一般的な精神健康の状態について。子どもの精神病理を評価するために使用された測定具は「子ども行動チェックリスト」および「子どもアセスメント・スケジュール」など。母親の精神状態は、「Conflict Tactics Scale」[Brief Symptom Inventory]によって測定された。教育、収入、雇用ステータスおよびリンクそのほかの属性の情報（現在のパートナーとの関係の期間など）</p>	<p>暴力を受けた女性の避難所(n=64)および、家庭での暴力があるとスクリーニングされたコミュニティーの各所(店、教会および社会サービス機関)を通じて (n=102) 募集。 「コントロール・サンプル(n=199)はコミュニティーで、子どもが6-12歳の女性を「家族に関する研究」のために必要としているという</p>	<p>ヨーロッパ系アメリカ人53%、アフリカ系アメリカ人6%、メキシコ系アメリカ人35%、アメリカインディアン4%、アジア系アメリカ人/その他2%。サンプル中の54%は父親が子どもと血がつながっている。27%は法律上の義理の父親。19%</p>

			も集められた。	ポスター/チラシで募集された。 365人の女性と子ども1人。子どもは男の子183人、女の子182人。母親は平均年齢33歳、平均12年の教育を受けていた。	は法律上も生物学上も無関係。子どもは6-12歳。
女性キャリア労働者	Women in Nontraditional and Traditional Blue Collar Occupations (ds759) 1975-1978年 「非伝統的・伝統的ブルーカラー一職についている女性」 カリフォルニア3都市/3年間/3回	3年間の追跡調査。非伝統的・伝統的ブルーカラーの職業についている女性の経験について調査。非伝統的職とは、配管工、電気工、配線工、フォークリフト操縦者など。	1975年と1976年の冬と春に、117人の女性が、2-3時間のインタビューをされた。(86人は非伝統的なブルーカラーの仕事、31人は伝統的な女性の仕事とされている、熟練・半熟練工。) 幼年期の経験および家族背景、職歴、どのようにしてブルーカラーの仕事につくようになったのか。仕事役割および家族役割;現在の仕事およびトレニング;サポーターネットワーク;仕事および家族役割。 1977の春:現在の雇用に対する、満足感および不満感;仕事に必要な技術およびトレニング;サポーターネットワーク;仕事および家族役割。 1978の春:現在の雇用;仕事のタイプ、役職や給料および(または)雇用者の変化;仕事にとどまっている/または仕事を離れた理由;将来の雇用見通し。	カリフォルニアの3つの都市:サンフランシスコ、ロスアンゼルス、サンディエゴ、の訓練と雇用のクロスセクションから選ばれた。熟練工または準熟練工職の、訓練中またはオンザジョブプログラムに、1975年の秋に所属していた者。比較対照グループとして、より伝統的なサービス業、たとえば美容師業などについている女性が初年度にインタビューされた。 1977の春、初回の回答者うちの61人が再インタビューを受けた。(非伝統的な51名と伝統的な10名)。 1978の春、非伝統的ブルーカラーの85名の女性のうち54名と電話インタビューが行なわれた:	117人の女性 1回目追跡61人 2回目追跡54人。
女性科学教育	Women in Science Concentrations (ds999) 1983-1987年 「科学を専攻している女性」 大学志願者/大学1,2,3,4年生/4回	高校3年生のときに科学を専攻しようと考えた学部生がどのくらいの割合でその思いを貫いているかについての調査。 その思いを貫いていることに関連のある要因を、男子学生と女子学生両方について検討。	学生は、1, 2, 3, 4年時に、高校での経験および成績に関する情報、自分について、成功と失敗のパターン、および親の背景および影響についての質問票を送付された。サブサンプルは2年時に、科学コースに関するより詳細なインタビューを受けた:どのように専門を選んだか、自分について、また、科学・人文・社会科学を一般的な学問分野として比べてどう思う	1983年の夏、大学の志願書上で科学専攻に関心を示していた300人の女性および300人の男性が選ばれた。その後、この新入学生たちを、SAT 数学スコアの10ポイント以内のケースバイケースで男女ペアにした。「科学」とは本研究では、生	300人の女性 300人の男性

				か。	物科学、物理学、数学および エンジニアリングを含む。	
1	家族生活	Women's Roles and Well-Being (ds1813) 1956-1990年 「女性の役割と健康」	30年以上にわたる、家庭生活、職場、ボランティア活動の3つの場での女性の活動研究。生涯におけるこれらの3つの場へのかかわりのダイナミクス。年齢による違い。成人してから女性の役割の軌跡と、自分の現在に対する評価。母親の人生の願望や指向性が、母親の経験を通じて、成人した娘にどう伝わっているか。	1956年：女性の生活についてのさまざまなトピック、キャリア、家族、社会生活の問題などを取り上げた。1986年から1988年：母と娘の詳細な人生史。自記式質問票：母と娘の、家事、仕事、ボランティア役割、家庭や個人的状況、親との関係、自分についてなど。1990年：母親たちは人生の重大事件をどう経験したか、また人生の中で、どのような経験が重大だったかについての手紙。	1956年、ニューヨーク州北部に住む妻であり母である、無作為抽出された427人の女性をインタビュー。23-51歳。多数は高卒、労働者階級。1986年にフォロアアップ調査。1987-1988年に、そのうちの246人の娘1人をインタビュー。	1956年 427人 1986年 313人 1987-88年 246人
4	仕事	ニューヨーク州北部/既婚の母/23-51歳/30年以上				
4	女性健康					
1	青少年	Woodlawn Mental Health Longitudinal Community Epidemiological Project (ds774) 1964-1976年	就学時から思春期までにわたる、こどもの精神保健の調査。家族構成、学校の雰囲気、周辺地域など、環境が心理的な健康に及ぼす影響に焦点をおく。思春期の、薬物依存/濫用のリスクの増大との関連ある要因を特定し、予防や介入に役立てる。	臨床の測定具(例えば"How I feel" schedule; Mother Symptom Inventory)は、こどものおよび母親の機能の報告と症状を評価する。教育的測定具は、こどもの適性、学習への準備、教室での振る舞いを評価するために含まれた。家族構造と厚生は母親とのインタビューを通じて評価。思春期のフォロアアップでは、質問票で、薬物使用の頻度、愛情とルールに関する家族内の実際と価値観、非行の自己報告、性行動および態度を評価。	オリジナルサンプルは、シカゴ南部の都市部の貧しい地域在住のアフリカ系アメリカ人小学校1年生の4つの集団。 1964-1967 毎年登録。1年生(1966-1967)の第3コーホートは母親もインタビュー。1976年、こどもたちがフォロアアップ調査のとき、フォロアアップ調査。	1966年 1388人 母親 1976年 939人 母親 子ども 1242人 + 追加 200人
5	精神的健康	「ウッドローン 精神衛生疫学的追跡調査プロジェクト」 シカゴ南部の都市部/小学1年生と母親/10年以上				
1	貧困	Worcester Family Research Project: Baseline Data (ds1099) 1992-1995年	ホームレス家族と、その比較対照の低収入家族についての総合的な質的、量的データを得ること。ホームレスになるリスク要因と、ホームレスであることがこどもの社会的、精神的、認知的発達に与える影響について。	母親からのデータは、4回にわたって集められた。全部で約10時間。人口学的属性、住居の情報、人的ネットワーク、社会的資源、性的または身体的暴行を受けた経験、精神衛生、薬物乱用、健康状態。ひとりひとりのこどもも、発達段階に応じた質問票、インタビューなど。	1992年8月から1995年7月の間に、220の、ホームレスの母子家庭(220人の母親と350人のホームレスのこどもたち)と、AFDCを利用してしている母子家庭(216人の女性と350人のこどもたち)。	220人の母親 350人の子ども。
4	母子家庭	「Worcester 家族研究プロジェクト」				
6	貧困	マサチューセッツ州/ホームレスと低収入母親/4回/3				

年	Homelessness	スラインの1部。	リカン、6%がそのほかのラテン系。	
1	Young Men in High School and Beyond: A Summary of Findings from the Youth in Transition Project, 1966-1974 [ICPSR 3505] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03505.xml	1966-74年の5歳パネル調査移行期にある若者の追跡調査プロジェクトの一部。高校退学の原因とその結果を調べる。性格や行動の特徴などを探り、退学のリスクのある者を把握。	5波全てで、能力と学力、家族について、その他の決め手となる特徴(情緒的状态、自己概念、価値観と意識、将来予定と行動。) 回答者の政府、政治家への意識、人種統合、ベトナム戦争に対する態度。就業経験、収入、軍隊経験、教育など。	1966年: 多段階確率抽出により、アメリカ全国から、公立学校(87)の10年生の男子生徒(2213)を選んだ。 1968年 1,886 1969年 6月 1,799 1970年 7月 1,620 1974年 1628人?
4				
7	「若い男性の高校以降一移行期にある若者についての調査」 全米/高校2年生/2年後/3年後/4年後/8年後・5回			
1	Youth Attitude Track Study (YATS) [United States]: Fall 1991 [awaiting update to data] [ICPSR 6238] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06238.xml	若者の軍隊に対する意識、政治意識、教育や仕事についての調査。	1975年に開始。軍、軍の広告の認識とそれに対する反応、回答者の軍の様々な隊に参加するかどうかの可能性をたずねた。政府、政治問題についての意識。アメリカは他国に比べて軍事力を強めるべきかどうか、女性性はコンバットに行ってもいいか、女性もドラフト登録すべきかどうか、アメリカは、経済利益を守るため、あるいは他国の権利を守るために戦争すべきかどうかなど。 現在の就学状況と教育レベル、完了した学年、学校の種類や証書の種類、大学の予定、大学学費支払いの予定など。 過去の就業、働いた理由、現在の仕事への満足、住んでいる地域での雇用環境など。年齢、性別、人種、ヒスパニックか否か、婚姻状況、住宅、世帯構成、親の教育など。 1992: Reserve Officers' Training Corps (ROTC)への参加の意志の有無や大学卒	16-24歳、アメリカの施設等を除く世帯に居住し、電話を所有しており、現在も過去にも軍に参加しておらず、調査時に参加予定が決まっていない人。 縦断調査 5498人。1990年秋か1991年夏に、YATSの実施の際、調査された、年齢条件を満たした人。 横断調査 4893人面接。横断調査のサンプルは、RRD方式で選ばれた。電話調査、1991年10月から11月実施。 1992:縦断調査 5013人(前回は調査し、年齢条件にかなった人)、横断調査 5574人。RDで抽出。電話調査、1992年9-11月
4	Fall 1992 [awaiting new data] [ICPSR 6239] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06239.xml	(United States Department of Defense. Defense Manpower Data Center)		
8	「若者意識変容追跡調査、1991年秋」 全米/16-24歳/1年後			

			業後 officer training をする興味があるかをたずねた。			
1	<p>Youth-Parent Socialization Panel Study, 1965-1982: Three Waves Combined [ICPSR 9553] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09553.xml</p> <p>「若者と親の社会化に関するパネル調査 1965-1982 (3波統合)」</p> <p>Youth-Parent Socialization Panel Study, 1965-1997: Youth Wave IV, 1997[ICPSR 4023] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/04023.xml</p> <p>全米 / 高校生とその親 / 8年後 / 17年後 / 32年後</p>	<p>全国の高校生 (12年生) とその親の調査。生物学的にながった親子において、政治的な継続性をみる。ライフイベントや歴史的出来事が行動や意識に与える影響を調べる。</p>	<p>政治参加、政治への興味、社会問題に対して持つ意見、団体の評価、市民的指向、意識や行動の個人的な変化と安定、支持政党と選挙行動。また各回に特別な焦点を設けた。</p> <p>1965年：高校での経験、家族関係。 1973年：市民運動の時代、政策への意識 1982年：成長過程、親の問題や家族関係 1997年：政治についての見解、よい市民の概念、政府への信頼、アメリカ政府に対する意識。組合に対する意識、活動団体、政治家、特定の団体の影響力。 1982年以降の個人と家族における変化。性別、年齢、宗教、宗教参加の程度、婚姻状況、エシニシティ、教育状況と経歴、居住地、家族収入、就業状況。</p>	<p>1965年アメリカ全国の97の高等学校 (11の公立でないものも含む) が、大きさに比例した確率で選ばれた。各校から、15-21人の12年生が抽出された。</p>	<p>1965年 1669人 3分の1の生徒の母親、3分の1の生徒の父親、残りの3分の1の両親合計 1561 が面接。 1973年 1119人、229 郵送回答。1973年：1118人の親。62の郵送回答。 1982年 958人再調査、82の郵送回答。1982年 816人の親、82の郵送回答。 1997年：1669人のオピニオナルのうち、935人 56%</p>	

2. 政治・選挙に関する調査

2 0 1	政治 ・ 選挙 1	American National Election Series: 1972, 1974, 1976 [ICPSR 7607] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07607.xml 全米/18歳以上/6年間6回	アメリカ人の個人的背景、政治的特徴、社会政治的価値観、候補者やそのグループに対する評価、政策に対する意識、政治参加に関して把握する。		1972年11月の時点で18歳以上。アメリカの一般世帯に住む人 4445人。	1972年選挙前、後、 1974年選挙前、後、 1976年選挙後。
2 0 2	政治 ・ 選挙 2	American National Election Study, 1980 [ICPSR 7763] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07763.xml 全米/18歳以上/3回	市民の支持政党、政策に対する意識、政治的リーダーシップに対する市民の捉え方、社会ネットワークによる投票選択の固定化などを検討。		ニューハンプシャー予備選挙の前、6月すべての予備選挙終了後、9月、選挙後の11月に調査 パネル 1008人	

<p>American National Election Study, 1992: Pre- and Post-Election Survey [Enhanced with 1990 and 1991 Data] [ICPSR 6067] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06067.xml</p> <p>American National Election Study, 1990-1992: Full Panel Survey [ICPSR 3083] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03083.xml</p> <p>American National Election Study: 1992-1993 Panel Study on Securing Electoral Success/1993 Pilot Study [ICPSR 6264] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06264.xml</p> <p>American National Election Study, 1994: Post-Election Survey [Enhanced with 1992 and 1993 Data] [ICPSR 6507] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06507.xml</p> <p>全米 / 18 歳以上 / 各回 選挙前後</p>	<p>政治問題に対する意識ならびに選挙や政治家に対する意識を調査。</p> <p>1992 年選挙前後調査では、湾岸戦争開始時期のブッシュ大統領の高い支持率から、1992 年選挙時の不景気に向けての市民の意識の変化を調べる。</p>	<p>1990 年：大統領の仕事ぶり、湾岸戦争、価値観、個人主義、外交について。 1991 年：湾岸戦争の敵対意識が収まってから、数ヶ月後に調査。1990 年の選挙後調査と同じ項目、湾岸戦争に関わる項目、ジェンダー、エスニシティ、高齢者の医療ケア、社会利他主義について。 1992 年選挙前後：中絶、死刑制度、学校での祈禱、同性愛者の権利、セクシュアルハラメント、女性の権利、フェミニスト意識、人種・エスニシティに関するステレオタイプ、学校統合、アフターマティブアークション、移民、移民政策、バイリンガル教育、アメリカの外交政策、湾岸戦争に関する考えなど。</p> <p>1994 年：防衛費、アフリカ系アメリカ人への公的支援、支出とサービスのトレードオフ、医療保険、女性の役割、福祉の改革、国家予算の配分、経済状況の評価、政治のキャンペーンへの参加、平等に対する意識、人種、学校での祈禱、中絶についての意識も含む。</p>	<p>1992 年選挙前後調査：1992 年 11 月時点で。アメリカの一般世帯に住む 18 歳以上。</p> <p>1990 年の選挙後調査、1992 年選挙前後調査：多段エリヤ確率サンプリングが用いられた。</p>	<p>1990 年 選挙前後 (1980 人) 1991 年 1383 人 1992 年 1359 人 (1991 年に回答しなかった人も含む) 3 波全てに回答 1060 人</p> <p>1992 年 選挙前後 (1005 人) 1993 年(1005 人) 1994 年(1795 人、うち 759 人は 1992 年調査から、635 人は 1993 年パイロット調査に参加、1036 人は新規)</p> <p>欠票については、その理由、訪問回数、調査できなかった世帯の情報を含む。</p>
---	--	--	---	--

2	政治イギリス	British Election Study: June 1970-February 1974 Panel Survey [ICPSR 7869]	メディアにおけるバイヤス、1974年選挙における投票第一第二候補、各政党への意識、国内、外交政策、各政党の主張への反応、階層、将来のイギリス経済。		多段階確率抽出。80の選挙区。1969年と1970年の選挙後、1974年	2207人
2	0	5	British General Election Panel Survey, 1986-1987 [ICPSR 6450]		1983年に調査した250選挙区から115区を選び、1986年には1633人、1987年2波では86年に拒否した人を除く1021人。	1986年 1633人 1987年 1021人
2	0	6	British General Election Panel Survey, 1987-1992 [ICPSR 6451]	政治や社会的意識、生活での経験、政治関心、支持政党、政党間の比較、就業、組合、生活満足度。		1987年の回答者のうち363人は拒否した。3463人のうち1631人が電話選挙運動と選挙後調査、2062人が面接調査に当てられた。
2	0	7	British General Election Panel Survey, 1992-1997 [ICPSR 2616]	1992年から1997年の個人レベルでの政治意識と社会経済状況の安定と変化、ならびに投票行動をみる。		3534人
2	0	8	British General Election Study: Campaign Panel, 1997 [ICPSR 2619] http://webapp.icpsr.umich.edu/cooon/ICPSR-STUDY/02619.xml イギリスほぼ全域/有権者	属性、支持政党、政治指向、世帯規模、婚姻状況、階級、就業歴、健康保険加入状況、国籍、選挙登録状況、くじやギャンブルの有無、収入、地域や近隣の状況	17歳以上の英国に住む成人。	1996年 A波 3662人、1997年 B波 1800人、1997年 C波 1809人、1997年 D波選挙後 2047人。

2	政治	カナダ	カナダの政治や選挙に関する調査	政党や政治家についての意見、インフレについての意見、憲法改正、選挙運動の資金、マリアナの法規制、公務員のストライキ。首相の評価、投票行動など。 2波：失業、アメリカカナダカンセン系、環境、税、価格調整、政策、候補者選好。	全国離率抽出、ケベック州でオーバーサンプリル。	1波：1972年1000人。 2波：1972年9月、1255人。 3波：1296人(初めての人も、前に調査した人も含む。)
0	政治	カナダ	カナダの政治や選挙に関する調査	選挙結果の予想、主な政党に対する意識、政党帰属意識、政治歴、投票予定、政治への関心、政治活動の資金の使い方、憲法改正、失業、インフレ、税、教育、環境問題、アメリカカナダ関係、ケベックの独立についての意識など。	多段階別クラスター。	1974年2562人、1979年1295人(新しいサンプルの追加、若いサンプルの追加)、1980年1748人、1980年5月に、ケベックの過去の対象者のみ、325人を調査。
9	政治	カナダ	カナダの政治や選挙に関する調査	政党帰属意識、投票選択、候補者の認識、問題の重要性の認識、政治活動。2波では、政党忠誠、市民妨害、発展途上国への支援、収入配分、税、防衛費についてのスタンスに対する意識、政党がどの程度市民に応えているかの認識。3波では、意識や意見の変化を計った。政策についての考えについての項目多数が繰り返りかえされた。個人の属性は3波ともあり。		1970年1838人、1971年1262人、1972年972人。1と2どちらかを拒否した人に郵送し、356人から回答を得る。
2	政治	オランダ	1波 1970年オランダ県知事選挙後、 2波 1971年議会選挙後、 3波 1972年の議会選挙後。	1971年：マスメディアとの接触、リーダーについての意識、地域・国の政府の評価、自治体・国・世界での重要問題、政治効力、政治関心、民主主義・NATO・外交に対する意識、戦争の可能性。(他波でも、繰り返される。)	郵便配達名簿に基づく地域名簿から4000世帯を抽出。世帯から1人抽出。 1波 1971年3,4月、2波 1971年4,5月、3波 1972年11,12月、4波 1973年3,8月、5波 1977年6,8月、6波 1979年9月-1980年1月。	合計 2495人。
1	政治	オランダ	オランダの投票行動と政治指向の変化と安定を明らかにする。	1972年：外交問題、主たる人や団体への信頼、福祉、政府、収入、住宅ニーズ、インフレ、娘の夫の選択の容認度。 1973年：環境政策における政府の役割、		
2	政治	オランダ	オランダの投票行動と政治指向の変化と安定を明らかにする。	1973年：環境政策における政府の役割、		
1	政治	オランダ	オランダの投票行動と政治指向の変化と安定を明らかにする。			
2	政治	オランダ	オランダの投票行動と政治指向の変化と安定を明らかにする。			

			<p>政策、商業や産業における政府の役割、豊かさに対する意識。</p> <p>1977年：追加：政党のイメージ、国の問題、失業の原因、政策の評価、投票行動、政治的左右の尺度、自由、平等、中絶、ヨーロッパ統合に対する意識。</p> <p>1979年：連立に対する意見、帰属政党意識、政党への同意度、内閣の評価、71,72,77年の投票、過去10年間の政党に対する意識。</p> <p>属性：年齢、性別、教育、婚姻状況、子ども数、世帯収入、宗教、居住地。</p>			
政治	Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1981-1986 [ICPSR 9272] http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/09272.xml		<p>1波 (1981年1,2月)：政治関心、回答者にとっての国の重要問題、1977年の投票、政党帰属意識、投票予定、政治の効力、左右の尺度、選挙結果の予想。</p> <p>2波 (1981年4,5月)：連立に対する意見、政治知識、経済問題、中絶、核燃料、収入格差、各種問題の解決にはどの党の対策がいいか、宗教への意識、政府の満足度、社会参加。</p> <p>3波 1981年5,6月：1981年の投票行動、市民の力、政治参加、物質主義的な価値観、女性解放、社会抗議、政府の信頼、宗教と社会について。</p> <p>4波 1982年9,10月：1982年の投票、テレビ討論の効果、今後の投票予定。</p> <p>5波 1986年5,6月：1986年の投票、失業経験。</p> <p>属性：性別、年齢、婚姻状況、就業状況、職業、教育、宗教、世帯規模、世帯収入、居住地。</p>	1981年選挙人名簿から。最終波では、一度でも回答した人にコンタクトした。	合計 2305人。	
政治	Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1986-1989 [ICPSR 6742] http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/06742.xml		<p>政治関心、重要な国の課題、政党帰属意識、1986年の自治体選挙での投票、経済政策、中絶、収入格差、核燃料、1986年の投票予定。(2波以降も)</p> <p>2波：政治効力、政治知識、宗教と社会、</p>	郵便配達名簿に基づく地域名簿から4000世帯を抽出。世帯から1人抽出。	1630人	

4	ダ	オランダ全国／有権者／3年・3回	1982,86年の投票行動、回答者のパートナーの投票、政治の左右の尺度、組合加入、社会運動への参加、市民政治活動への参加とその効力、各種問題についての意識。 3波：1989年の投票行動、政策、左右尺度、経済成長の予測、新社会運動への参加、革新・保守について、公害、しきたりと伝統。 属性：年齢、性別、婚姻状況、就業状況、職業、教育、宗教、世帯収入。				
2	政治	Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1989-1994 [ICPSR 6751] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06751.x ml	3波パネル。				1755人
1	オランダ	オランダ全国／有権者／5年・3回	1波：政治への関心、回答者にとっての重要な政治課題、投票予定、所属政党、政策や政治家に対する意識、中絶、収入格差、環境汚染に対する意識、属性。 2波： 3波：同上。追加は、安楽死、核兵器、経済問題についての各政党の考への評価、政治家についての知識、政党評価、政府の評価、組合所属の有無、ヨーロッパ統合についての意見。				郵便配達名簿に基づく地域名簿から4000世帯を抽出。世帯から1人抽出。 1989年7月選挙前、1989年9月選挙後 1994年5,6月選挙後。
5	政治	Dutch Parliamentary Election Study, 1971[ICPSR 7311] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07311.x ml	1971選挙の選挙運動中と、投票日後に調査。				1波 2495人のうち、1980人が2波を回答。
2	オランダ	オランダ全国／有権者／3ヶ月・2回	3波パネル 選挙運動と選挙の効果をみる。				1波 2305人、2波 1812人、3波 1620人。
6	政治	Dutch Parliamentary Election Study, 1981[ICPSR 7912] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07912.x ml					
7	オランダ	オランダ全国／有権者／半年・3回					

2	Dutch Parliamentary Election Study, 1994 [CPSR 6740] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06740.xml	選挙前後 2 波パネル。 Lubbers-III 内閣成立前後。	過去のものとほぼ同様の内容。	1812 人。
1	オランダ全国 / 有権者 / 選挙前後 2 回			
8	Erie County Study, 1940 [CPSR 7204] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07204.xml	世論の発展と変化、政治意識のダイナミクスを調べる。投票予定の変化に重点を置く。何が意識の変化に寄与するのかを調べる。	党の社会的、思想的な違いの認識、選挙運動への参加、情報収集、ニュースの活用、投票予定、投票予定の候補者。回答者や家族の投票歴、性格、意識、家族や友人、メディア、ラリーの影響。	オハイオ州 Erie 郡。無作為で 600 人。 5 月から 11 月まで毎月調査。
2	政治			
1	オハイオ州・エリー郡 / 有権者 / 半年・6 回以上			
9	Florida Voter Panel Study, 1999 [CPSR 3435] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03435.xml	中絶の権利についての意識をさぐり、他の政治問題に対する意識や知識をたずねる。	政治家、政治団体、プロライフ運動についての考え。政治の一般的知識。	フロリダ州。708 人。2 波パネル。電話調査。
2	政治			
2	フロリダ州 / 有権者 / 半年・2 回			
0				
2	French Election Study, 1958 [CPSR 7278] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07278.xml	フランスの選挙と政治に関する調査。	憲法案、改正についての投票予定、政治参加の度合い、情報収集をする度合いなどを探る。フランスの国家のありかた、住宅、学校、アルジェリア危機など政治経済的問題について。	1 波は 1958 年 9 月初めに、2 波は 1958 年 11 月新政権案について、3 波は、議会選挙の 2 回目終了後。 サンブルを 3 つにわけ、それぞれ、9、11 月、9、12 月、11 月と 12 月に調査。
2	政治			
2	フランス			
1	フランス全国 / 有権者 / 4 ケ月・3 回			
2	German Election Panel Study, 1972 [CPSR 7102] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07102.xml	1972 年：経済状況の判断、政党帰属意識、政党のランク付けなど。1、2 波では、政治問題に対して様々な意識と関心をたずねた。 1976 年：左右の思想尺度でどの辺に自己を位置づけるか、経済問題がどの程度重要か、重要課題に対する意識、自由回答で、経済	1972 年：経済状況の判断、政党帰属意識、政党のランク付けなど。1、2 波では、政治問題に対して様々な意識と関心をたずねた。 1976 年：左右の思想尺度でどの辺に自己を位置づけるか、経済問題がどの程度重要か、重要課題に対する意識、自由回答で、経済	1972 年：1 波 2052 人、2 波 1603 人、3 波 1222 人 (選挙後)。 1976 年：1 波 2076 人、2 波 1529 人
2	政治			
2	ドイツ			
2	ドイツ全国 / 18 歳以上 / 1 ケ月・3 回			

	<p>German Election Panel Study, 1976 [ICPSR 7513] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07513.xml ドイツ全国 / 18 歳以上 / 1 年・3 回</p> <p>German Election Panel Study, 1983 [ICPSR 8452] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08452.xml ドイツ全国 / 18 歳以上 / 4 ヶ月・3 回</p> <p>German Election Panel Study, 1987 [ICPSR 9078] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09078.xml ドイツ全国 / 18 歳以上 / 5 ヶ月・2 回</p> <p>German Election Panel Study, 1990 [ICPSR 6192] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06192.xml ドイツ全国 / 18 歳以上 / 1 年間・4 回</p>	<p>状況の理解、選挙運動、新政党、民主過程、公務員、法と秩序についてたずねた。 1983 年: 1983 年の選挙に関する意識、投票行動など。政党への意識や政治家に対する意識。 1990 年: 政治家、政党、政治課題に関する意見が、はじめの 3 波で計られ、4 波では、選挙後に再度調査。 最近の選挙での投票、政党選好、政治家や関連事項に関する意見、35 時間労働、ドイツ統一、テレビ報道の中立性など。失業の不安、新聞の好み、家族で政治の話をするか、教育レベル、信仰など。</p>	<p>1969 年: 政治に対する意識、評価、関心、投票行動など。属性。 1980 年: 6, 9, 10 月の調査。内容は他と同様。ドイツの一番重要な課題、年金の</p>	<p>1969 年: 1967 年の回答者のうち 1006 人 55.6% が回答。 1980 年: 西ベルリン以外の西ドイツ一般世帯居住の 18 歳以上。</p>	<p>人、3 波 1196 人。 1983 年: 1622 人。 1987 年: 1954 人 1990 年: 2070 人</p>
2	<p>German Election Study, 1969 August-September, [ICPSR 7108] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07108.xml</p>	<p>ドイツ人の政治家に対する意識、社会問題に対する考えなど。</p>	<p>1969 年: 政治に対する意識、評価、関心、投票行動など。属性。 1980 年: 6, 9, 10 月の調査。内容は他と同様。ドイツの一番重要な課題、年金の</p>	<p>1969 年: 1967 年の回答者のうち 1006 人 55.6% が回答。 1980 年: 西ベルリン以外の西ドイツ一般世帯居住の 18 歳以上。</p>	<p>人、3 波 1196 人。 1983 年: 1622 人。 1987 年: 1954 人 1990 年: 2070 人</p>

3	ツ	ml ドイツ全国／21歳以上／2ヶ月・2回 German Election Study, 1980 [ICPSR 7963] ドイツ全国／18歳以上／10ヶ月／10回		効率、原子力発電、教会と政治、労働悔いまい、オリンピックへの参加、アフガン問題、イラン人質など。また離婚に対する意識、余暇の過ごし方、ストレス源になる経験、属性など。自由回答では、ドイツ統一、アメリカとの関係も含む。	層化多段無作為 (サンブル地点、世帯、個人の3段) 2波は、新しい回答者 939 人を追加。	1980年: 11988 人
2	政治	German National Election Panel Study, 1972 [ICPSR 7110] http://webapp.icpsr.umich.edu/icoon/ICPSR-STUDY/07110.xml	1972年の国の選挙にあたり、ドイツ連邦共和国の選挙行動を分析するデータを集めるための調査。	政党や候補者に対する意識、経済や経済・価格政策、外交、ドイツ統一についての意識。	4波パネル調査。 3波は選挙前、最後4波は選挙直後。	6438人
2	ドイツ	ml ドイツ全国／18歳以上／1年間・4回		個人の社会経済的属性。		
4						
2	政治	Mexican Election Panel Study, 2000 [ICPSR 3380] http://webapp.icpsr.umich.edu/icoon/ICPSR-STUDY/03380.xml	2002年7月のメキシコ選挙において、選挙運動が、世論と投票行動に与える影響を調べる。	メディアとの接触、政治知識と関心、重要課題への意見、(民営化、失業、犯罪、死刑、政府サービス、政党や政治家への意見、メディアの信頼度、選挙過程に対する意識、候補者に対する意識など。属性も。	18歳以上のメキシコ人。選挙前後 2400人。 選挙運動が開始後ならびに選挙後に調査。そのうちの一部は、4.5月と6月にも調査。	1波 68%、2波 76%、3波 77%、4波 73%。
2	メキシコ	ml				
5		メキシコ全国／18歳以上／5ヶ月・パネル2回				
2	政治	National Black Election Panel Study, 1984 and 1988 [ICPSR 9954] http://webapp.icpsr.umich.edu/icoon/ICPSR-STUDY/09954.xml	1984年と1988年の大統領選挙に関連して、アフリカ系の有権者の政治意識と選好を調べる。	支持政党、関心、大統領投票予定、ジャクソン候補について、彼が出馬したことの影響。人種、ジェンダー問題、経済問題、生活の質、政府の支出、政治参加、宗教や教会の政治。属性。		1150人。
2	政治	全米のブラック世帯／4年・2回				
6						
2	政治	Panel Study of Political Values in the Former Soviet Union, 1990-1992 [ICPSR 6731] http://webapp.icpsr.umich.edu/c	ソビエト連邦の市民の民主主義的な価値に対するコミットメントと政治参加の程度を調べる。	・時事問題について (出版や放送メディア、ソ連の政治、様々な地位の政治家との関係、各国がソ連から出る権利、アメリカとの関係、外交政策、政府の役割。軍隊に対する	1992年4309人、698人は1990年のパネル調査にも参加。	
2	ソ					

7	<p>ocoon/icpsr-study/06731.x ml</p> <p>旧ソビエト連邦の成人 / 2年 間・2回</p>	<p>意識、核戦争の起きる確率、個人の生活や、ドイツの統一、ヨーロッパでの権力、東ヨーロッパの情勢、個人の権利と慈雨宇、ペレストロイカ、国の目標、冷戦、ロシア文化におけるユダヤ系の影響。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活満足感、モノやサービスの入手しやすさ、様々な集団に対する意識、政治家や政府に対する意識、経済の評価、見直し、反政府批判の限界、非中心的経済システムの評価、西ヨーロッパの統合について。 ・政党に対する意識、法システム、組合、教会、軍隊などの制度に対する信頼感、家族内の問題。民主化への動きが、自分の生活や知り合いの生活にどう影響したか。経済、社会、政治の変化、権利や自由、政治や市民団体との関わり、家族や友人と議論するか、国が10-15年の間に直面する問題。 ・1990年と1992年の調査では、自記式の部分を含む。年齢、性別、信仰、婚姻、教育、就業、政党、労働組合員かどうか、国籍、収入、生まれた地域、母国語、住宅。 	<p>全国多段階確率抽出。第1波の調査時（1973-1976年）に16歳以上。</p> <p>POLITICAL ACTION: AN EIGHT NATION STUDY, 1973-1976 (ICPSR 7777), と POLITICAL ACTION II, 1979-1981 (ICPSR 9581)双方への回答者のデータ。</p>
2	<p>Political Action Panel Study, 1973-1981 [ICPSR 9582] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/icpsr-study/09582.x ml</p> <p>米国・ドイツ・オランダ全国 / 16歳以上 / 2回</p>	<p>一般のおよびその他の方法での政治参加について。アメリカ、ドイツ、オランダ3カ国の2波パネル調査。</p>	<p>生活満足感、物質的な生活の質、政治への関心、持つ者と持たざる者の認識、社会的政治的問題に対する意見、重要な政策課題のランク付け、現在の政府の評価、左、右政党のよい点悪い点、今の政治や政治システム全体の評価、プロテストを認めるか、様々な政治活動への参加状態、投票行動、若者に対する意識、政治への信頼度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別、エスニック出身、教育、宗教、婚姻地位、子どもの数、就業状態、職業、組合員かどうか、個人世帯収入、所属団体、活動、親の教育レベルと政党選好。
2	<p>米国・ドイツ・オランダ全国 / 16歳以上 / 2回</p>	<p>生活満足感、物質的な生活の質、政治への関心、持つ者と持たざる者の認識、社会的政治的問題に対する意見、重要な政策課題のランク付け、現在の政府の評価、左、右政党のよい点悪い点、今の政治や政治システム全体の評価、プロテストを認めるか、様々な政治活動への参加状態、投票行動、若者に対する意識、政治への信頼度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別、エスニック出身、教育、宗教、婚姻地位、子どもの数、就業状態、職業、組合員かどうか、個人世帯収入、所属団体、活動、親の教育レベルと政党選好。 	<p>生活満足感、物質的な生活の質、政治への関心、持つ者と持たざる者の認識、社会的政治的問題に対する意見、重要な政策課題のランク付け、現在の政府の評価、左、右政党のよい点悪い点、今の政治や政治システム全体の評価、プロテストを認めるか、様々な政治活動への参加状態、投票行動、若者に対する意識、政治への信頼度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別、エスニック出身、教育、宗教、婚姻地位、子どもの数、就業状態、職業、組合員かどうか、個人世帯収入、所属団体、活動、親の教育レベルと政党選好。
8	<p>米国・ドイツ・オランダ全国 / 16歳以上 / 2回</p>	<p>生活満足感、物質的な生活の質、政治への関心、持つ者と持たざる者の認識、社会的政治的問題に対する意見、重要な政策課題のランク付け、現在の政府の評価、左、右政党のよい点悪い点、今の政治や政治システム全体の評価、プロテストを認めるか、様々な政治活動への参加状態、投票行動、若者に対する意識、政治への信頼度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別、エスニック出身、教育、宗教、婚姻地位、子どもの数、就業状態、職業、組合員かどうか、個人世帯収入、所属団体、活動、親の教育レベルと政党選好。 	<p>生活満足感、物質的な生活の質、政治への関心、持つ者と持たざる者の認識、社会的政治的問題に対する意見、重要な政策課題のランク付け、現在の政府の評価、左、右政党のよい点悪い点、今の政治や政治システム全体の評価、プロテストを認めるか、様々な政治活動への参加状態、投票行動、若者に対する意識、政治への信頼度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別、エスニック出身、教育、宗教、婚姻地位、子どもの数、就業状態、職業、組合員かどうか、個人世帯収入、所属団体、活動、親の教育レベルと政党選好。

政治イギリス	2	イギリスの政治における変化を捉えるための調査。	政治についての情報源、政党や政党リーダーへの意識、政府の責任、経済的状态、その他の重要な課題。 選挙区の議員を知っているか、社会階級の認識、労働組合の影響も調べる。3大政党に対する意識。 年齢、性別、婚姻地位、子どもの数、宗教、教育、職業、収入。	1963年選挙のない年に開始し、1964年、1966年、1970年の選挙時に実施。 1963年多段階層化抽出。イングランド、スコットランド、ウェールズ。個人世帯か、施設に住む人。 1964年と1966年は、再調査で、1963年にサンプルされた住所に住み、選挙登録をしている人が回答。 1970年は、過去3回に1度でも参加したことのある人のみ。	2922 ケース
政治カナダ	2 3 0	カナダの政治、国家、地域社会の支持の要因とその影響を調べるため。	1983年：選挙活動への参加、効率的なシステム、議会、税政策、社会保障システム、軍事力、就業機会の重要性の考え方 1984年：回答者にとっての選挙における重要課題。 1988年選挙前：支持政党、投票歴、言語と文化的帰属意識、自由貿易協定について、選挙において最も重視する問題、ディベイトで誰が印象に残ったか。 1988年選挙後：自由貿易、市民サービス、税、国家公務員の信頼度、環境保護について 全波：年齢、人種、性別、信仰、教育、職業、就業状況、収入をたずねている。	全国、層化無作為抽出。小さな州のオーバーサンプル。カナダの18歳以上。	
政治イギリス	2 3 1	政治行動に関わる社会的ネットワークと状況を中心とした選挙運動におけるコミュニケーションと効果を調べる。	1波：政治参加の経歴、予備選挙への参加、一般的な政策への意見、国の重要課題の認識、投票予定。回答者と配偶者の人口学的属性、政党忠誠、選好、政党帰属意識、リベラル保守帰属意識。 2波：回答者の近所、職場、組織参加、余暇、家族についてたずね、それぞれの領域・関係の中で、政治の話をするか、政治についての情報交換があるかどうかなど、政治	インディアナ州サウスベンドの16地区から、無作為抽出。	1波：1984年の選挙運動開始前 2波：選挙前に実施。 3波：1984年の選挙後

			<p>の重要性をたずねる。さらに、候補者の選好、候補者に対する意識、経済や外交や他の政策問題の予想など。</p> <p>3波：メディア利用、運動中回答者が接触した党、投票行動、運動に関わる課題に対する意識。地域の政治や政治家や団体に対する意識、回答者の社会ネットワーク。</p>	<p>投票権を持つ年齢(18歳以上)のロシア市民を多段地域確率抽出</p> <p>1995年12月の議会選挙の前後と、1996年6月大統領選挙直後の3回の個別面接調査。</p>	2841人
2	<p>Russian Election Study, 1995-1996 [ICPSR 3323] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocon/ICPSR-STUDY/03323.xml</p>	<p>ロシア市民の選挙プロセス、政党、個々の政治家に対する態度。</p>	<p>政治への関心 キャンペーンとの接触 政党支持 投票 社会の変化についての意見(民営化、経済自由化、社会的セーフティネット改革、政治的競合、言論と思想の自由) 外交政策について 民主主義、政府、モラルについて</p>		
3	<p>「ロシア選挙研究」</p>		<p>性別、年齢、婚姻区分、家族規模、生まれた場所と現在住んでいる場所の規模、教育、国籍、言語圏、宗教的帰属と実践、職業、職歴の詳細、本人と家庭の収入と支出</p>		
2	<p>ロシア全国/有権者/2年間・3回</p>				
2	<p>Televised Presidential Campaign Impact on Voters: 1972 Panel, Syracuse, New York [ICPSR 7989] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocon/ICPSR-STUDY/07989.xml</p>	<p>大統領選挙戦中にテレビが投票者に与える影響を調査すること。 特に、テレビ・ニュースおよびテレビでの政治広告が、人々の政治的イメージと情報に及ぼす影響に焦点を当てる。</p>	<p>回答者のテレビの視聴、および候補と課題に関する見解を中心にインタビューがおこなわれた。 また、愛党心のような、テレビによって直接影響を受けることがあまりないと思われるが、コミュニケーションの効果を紹介する可能性のある指向性についても尋ねた。</p>	<p>1972年、ニューヨーク州首都シラキュースで暮らす成人の無作為抽出に対する選挙前の3回の個人のインタビューおよび選挙後の電話インタビュー</p>	<p>9月前半の第1の調査では、731人。うち650人が10月前半と11月前半の選挙日直前にインタビューを受けた。オリジナルの731人の回答者のうちの676人が選挙後の簡単な電話インタビュー。</p>
3	<p>「大統領選挙キャンペーンテレビ放送の投票者への影響：1972年ニューヨーク州シラキュースパネル調査」</p>				
3	<p>ニューヨーク州シラキュース成人/同年に数回</p>				

子ども	<p>Three-Wave Political Socialization Panel Survey of Children in the San Francisco East Bay Area, 1968-1969 [CPSR 2341] http://webapp.icpsr.umich.edu/cooon/ICPSR-STUDY/02341.x</p>	<p>子供の政治的社会化に関するいくつかの本質的かつ方法論的問いについて調査した。</p>	<p>子供の、アメリカ大統領のイメージ、政治的参加、政治的知識、政治的ではない経験から政治的参加および政治的エフィカシーへの一般化、政治的戦略への意識、政治体制への満足、政府の責任についての認知、若者と政治、政党識別についてを調査した。調査のタイミン(第1波 1968年12月、第2波 1969年1月、第3波 1969年5、6月)は、ある大統領から別の政党の大統領に変わるまでの期間を含む)により、子供の大統領像に対する態度の変化を測定。新しく選ばれた大統領のイメージが6ヶ月間にどのようにできあがっていくかについても研究された。</p>	<p>サンフランシスコ・ベイエリアの公立学校とカトリックの学校に通っている4、6、8年生。</p> <p>サンフランシスコ・ベイエリア州バークレイの二つの公立学校と、カリフォルニア州オークランドの3つの公立学校と2つのカトリックの学校に通っている4、6、8年生。</p> <p>1968年12月2～20日 1969年1月22～30日 1969年5月22日～6月5日</p>	<p>第一波：クローズ形式 453人、オープン形式 487人 第二波：クローズ形式 482人、オープン形式 509人 第三波：クローズ形式 487人、オープン形式 514人 第1から3クローズ形式 332人、オープン形式 405人</p>
2	<p>「サンフランシスコベイエリア地域児童の政治的社会化についての3波パネル調査 1968-1969年」</p>		<p>教育カリキュラムの中の政治的な内容についての質問についての教師の反応や、教室で教室でそのような問題について議論することが適切であるかどうかについての教師の意見も収集している。</p> <p>この収集の方法論的な特徴は、クローズド(1,3,5)とオープンエンドの(2,4,6)質問形式の比較が可能ということ。また、質問の文言まで共通にしたフランスとアメリカ合衆国の政治的社会的化研究の比較、子供の政党の選択およびその時間を越えた安定性とそのほかの意見についての比較研究、が可能ということ。7-8の部分(1-3波、クローズドとオープン形式のデータの)は、調査の3つの波すべてに参加した個人のレスポンスを含んでいる。バックグラウンドの、年齢、性別、人種、知能、宗教、父親の職業、教育、社会的関心などの変数が測定された。</p>		
3	<p>サンフランシスコ・ベイエリア / 4,6,8年生 / 1年間に3回</p>				
4					
2	<p>Watergate Hearings Panel Survey [CPSR 7352] http://webapp.icpsr.umich.edu/cooon/ICPSR-STUDY/07352.x</p>	<p>政治に対する関心とウォーターゲート事件について。事件について、どれくらい知っているか、メディアの利用、政府と政治に</p>		<p>クリエーブランド市周辺の投票権を持つ年齢の住人。 クリエーブランド市の電話帳から500の電話番号の無作為抽出</p>	<p>第一波：360人 第二波：193人 第三波：135人 全三波に参加した</p>
3					

5	会 問 題	ml ウォーターゲート公聴会パネル 調査 クリーブランド市／有権者年齢 ／1年間に数回	対する感情、事件にかかわった 個人に対する意見を捉える調 査。	行動、政府や政治家に対する信頼の度合い について。 人口学的変数：年齢、性別、教育、職業 それ以外の質問のほとんどは、公聴会がす すむにつれて市民の意見と価値観がどう変 化するかを評価できるように各波で質問さ れた。	出 第一波：1973年5月、上院 ウォーターゲート委員会公聴 会前 第二波：公聴会中（メモリ アルデー休会） 第三波：1973年7月、リチャ ード・ニクソン大統領の事件 へのかかわりを裏付ける、ジ ョン・ディーンによる証言の 後	のは116人
---	-------------	---	---------------------------------------	--	--	--------

3. 犯罪・防犯・警察・更生プログラム・依存治療等のプログラム効果の調査

犯 罪 防 止 ・ 暴 力	Community Crime Prevention and Intimate Violence in Chicago, 1995-1998 [ICPSR 3437] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/c
ocon/ICPSR-STUDY/03437.x
ml">http://webapp.icpsr.umich.edu/c ocon/ICPSR-STUDY/03437.x ml 「シカゴでの地域犯罪防止と 親密な関係間での暴力」 イリノイ州、シカゴ／18歳以上 ／4年間	女性が親密なパートナーが らの暴力を経験し、その他の条 件が同一の場合、地域の状況が いかに暴力から逃れることを 促進するかあるいは障害にな るかを調べる。	分析単位は個人の虐待された女性（地域で はない）。女性の立場にたち、その場所にと ってあたりを見回すという立場から調査。 シカゴで一番信頼性があり、全面的であ るデータが入りできる最も小さい単位であ る、警察の巡回区域を選んだ。 地域レベルの変数は、有権者の投票率、 公的援助を受ける世帯率、空き家率、所有 される住宅率、女性の貧困世帯率、暴行の 起きる率、そして薬物犯罪率を含む。 人種、民族、年齢、婚姻状態、収入、もし て女性とその虐待者の教育レベル。 社会サポート・ネットワーク（SSN）ス ケール、インタビュを行った際の言語、 ハラスメント、パワハラ・アンド・コント ロール・スコア、ポスト・トラウマティッ ク・ストレス・ディソオーダー（PTSD）診 断、回答者の精神及び身体的健康に関係す るその他のデータ、そして変化。 女性の世帯に関して：彼女がホームレス かどうか、世帯に住む人数とそれぞれの詳 細、世帯に住む彼女の子どもとその他の子供	イリノイ州、シカゴに住む 18歳以上の虐待を受けた女 性。CWHSRSにより、少なく とも一度、その後の再インタ ビュを受けた人。 シカゴ女性の健康リスク調査 (Chicago Women's Health Risk Study)、1995 - 1998 (ICPSR 3002)に参加した 人のうち、210の虐待された女性 の長期的居住地域における地域 女性居住地域における地域 情報データと組み合わせた。シ カゴ代替警察計略（CAPS）評 価から採られたデータ。シカ ゴ地域警察プログラムの長期 的評価、1995-1998 (ICPSR 3335)。	210ケース	
3						
0						
1						

			数、その世帯にはいない子供の詳細、そして先年における世帯構成の変化。 過去1年における援助を求めたかどうか、警察について：女性が医療介護を求めたか、警察にコンタクトしたか、機関やカウンセラーに支援を求めたか、彼女が保護を受けたかどうか。その関係をたったか、絶とうとしたか。 先年における暴力事件についての要約的な変数を含む。						
警察組織評価	Community Policing in Madison, Wisconsin: Evaluation of Implementation and Impact, 1987-1990 ICPSR 6480J http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06480.xml	警察の新しい組織構造の効果を計る。							
3	ウイスコンシン州・マディソン / 4年間・3回								
0									
2									
青少年の犯罪	Crime Causation Study: Unraveling Juvenile Delinquency (ds896) 1940-1963年 「犯罪の原因研究：少年非行の解明」	青少年非行の原因のさまざまな側面を探る。 Glueck は、犯罪の原因に寄与するものを社会的 (社会経済的)、身体的 (体型)、知性、感情的一気質的なものの4つのレベルから探った。	心理テスト、参加者および家族との半構造化した家でのインタビュ、学校職員とのインタビュ、精神医学的検査、身体検査、施設記録の詳細な検討などを含んでいる。 Gluecks は400以上の要因を分析。 参加者の犯罪史、家族史、学校史、クラブ会員史および兵役歴に関する広範囲なデータを含む、480人の非行者(時間 I)の紙データを所有。 多数の社会福祉事務所、犯罪矯正記録、養育家庭の割り当てから、刑務所入所記録	心理テスト、参加者および家族との半構造化した家でのインタビュ、学校職員とのインタビュ、精神医学的検査、身体検査、施設記録の詳細な検討などを含んでいる。 Gluecks は400以上の要因を分析。 参加者の犯罪史、家族史、学校史、クラブ会員史および兵役歴に関する広範囲なデータを含む、480人の非行者(時間 I)の紙データを所有。 多数の社会福祉事務所、犯罪矯正記録、養育家庭の割り当てから、刑務所入所記録	サンプルは 1000 人の白人男性： 非行者 500 人と非行者でない 500 人を、年齢、知能、人種および居住地域で マッチ。	警官調査：1波 269人、2波 264人、3波 230人。 3波とも回答したのは202人。パネル分析は169人。 マディソン市民調査：1676世帯(センサスブロックから、学生住宅街と商業地域を除外。) EPD 地域では77.8%、他の地域では75.1%。2波では66.2%、772人。	1940-1948(非行者500人と非行者でない500人) 1948-1956(非行者453人と、非行者でない490人) 1954-1963(非行者436人と、非行者でない467人)		